

## 研究要旨

テーマ：歴史的 content 単元「縄文と弥生，生きるならどちらが幸せか」における活用事例	
対象学年：小学校 6 年生	教科科目：社会科（歴史的 content 領域）
使用した教材	
お茶の水女子大学 ヒューマンライフイノベーション開発研究機構編「Q&A シリーズ生活習慣病成人期」p.37「図 エネルギー産生栄養素バランス」	
問題と目的・授業案のポイント	
筆者（授業者）の経験から、「食」を「判断の規準」にして「縄文と弥生，生きるならどちらが幸せか」という学習をおこなった場合，子どもたちの多くが「弥生時代の方が幸せ」と考えてきた。その理由の多くは「米は保存ができるので，採集や狩猟に依存する縄文時代よりは飢えないですむ」ということだった。反面「縄文時代は結構グルメ食」など，現代人から見て思ったよりも良い物を食べているという意外性を突く考えも出されてきた。そこで，栄養のバランスという視点が入ると縄文時代の食の方が幸せという傾向はどのようになるのか試行する学習を行いたかったのである。	
実践結果と考察	
今回の実践をふり返ってみると，X 組では要因「バランス」が「縄文時代の方が幸せ」派の子どもたちの思考と関連させられたのは，「縄文時代の方が幸せ」派の X8 児が「この結果からは，弥生時代よりも縄文時代の方が栄養のバランスが良いことがわかります」と発表したことにその原因が求められるだろう。Z 組でも要因「バランス」は見出されたのであるが，それが決定的に「〇〇時代の方が幸せ」という結論に結びつけられることはなかった。その違いは「図 エネルギー産生栄養素バランス」を見たのか見なかったのかという違いから説明するよりも縄文時代・弥生時代の食物栄養素分類表を作成する活動を行ったのか行わなかったのかという学習活動の違いから説明した方が説得力があるだろう。「図 エネルギー産生栄養素バランス」は本実践においては有効に使われなかったと判断して間違いない。	
大学や他校園との接続や連携に関する示唆	
「図 エネルギー産生栄養素バランス」のバランスは PFC（たんぱく質：脂質：糖質）のエネルギー比率のことである。「エネルギーを必要なだけ摂取する前提（大人で約 2000Cal 程度）」で，PFC をどの割合で摂ったらよいかを示している。小学生が行ったように，五大栄養素に分類するという時の栄養素の必要量とは異なる概念を示している。そのように考えていくと，「図 エネルギー産生栄養素バランス」を子どもや生徒に教授する意図は流行の「糖質ぬきダイエットがヘルシーと言える根拠はない」ということになるとのこと。このような栄養学の基礎的な知識に裏付けられた家庭科や社会科の授業とはどのようなものなのか，大学の栄養学研究者と小中学校の家庭科・社会科の実践者がプランづくりを行う必要があるだろう。	
今後の展開の可能性	
日本では戦国時代以降江戸時代も武将の力の大きさを米の石高で表している。いかに米の生産や消費が人々の生活や文化の中に溶け込んでいるのかをうかがい知れる情報である。日本人の遺伝子にまで影響を与えた米は，栄養学と歴史的 content の十字路になれる存在ともいえよう。このような視点から，栄養学にアクセスできる社会科の授業デザインを考えることはとても楽しいだろう。	